

【抄 録】

『災害時の歯科保健活動』

『歯科補綴治療痕からの身元確認の可能性』

公益社団法人 三重県歯科医師会
災害時対応・体制室 副室長 **熊谷 渉**

1995年に阪神・淡路大震災、2004年新潟県中越地震、2011年東日本大震災、2014年御嶽山噴火、2016年熊本地震、全国各地で大規模地震が発生し、2018年西日本豪雨災害以降、豪雨災害が毎年のように発生している。災害発生から人命第一に救助活動が開始され、家屋等を失った被災者は避難場所や仮設住宅で生活を送っている。

一方、復旧復興の生活支援には歯科医療や歯科保健活動のニーズが高まってくる。新潟県中越地震被災後、避難所において高齢者の誤嚥性肺炎予防に歯科保健活動が寄与したことから東日本大震災で被災された避難所生活者に歯科の重要性が再認識され保健活動に広がりを見せた。

この研修会では近年の災害時の歯科保健活動から不明遺体の身元確認作業、東日本大震災身元確認作業に従事した経験を通じて、今後予想される南海トラフ巨大地震発災時に三重県で歯科医療・歯科保健活動をどう備えるのかまで触れていきたい。